

## 令和2年度第2回相生市総合教育会議会議録

日 時	令和2年12月22日（火）13時30分から14時45分		
会 場	市役所 3階 議員控室		
出席者	谷口 芳紀	市長	
	浅井 昌平	教育長	
	萩原 喜樹	教育長職務代理者	
	小西 毅	教育委員	
	栗原 英子	教育委員	
	西田 香子	教育委員	
説明員	玉田 直人	企画総務部長	
	宮崎 義正	教育次長（管理担当）	
	坂本 浩宣	教育次長（指導担当）	
	團 剛	管理課長	
	山本 哲也	学校教育課長	
	桑名 正彦	生涯学習課長	
	平松 孝夫	体育振興課長	
	横山 和彦	人権教育推進室長	
	富田 大三	管理課副主幹（書記）	
傍聴者	なし		

### 1 開会

### 2 市長挨拶

年末の大変お忙しいところ、総合教育会議に全員ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

寒い日が続きますが委員の皆様におかれましては、コロナをはじめ、健康面に十分留意され、益々ご活躍されますこと祈念申し上げます。

また、各委員には平素より相生市の教育行政にご尽力いただき誠に感謝いたしております。

さて、昨今「行政のデジタル化」が叫ばれております。相生市の教育におきましても、加速するICTを活用した教育に対応すべく、児童生徒向け1人1台学習用端末や小・中学校の高速大容量通信ネットワーク整備に対する予算の確保を指示いたしております。

なお、これら「デジタル化」が進めば、地域社会においては住民の利便性や行政の効率化の向上が期待されますが、その一方、人間関係が希薄になってしまうことも危惧されます。住民自治の土台は人間関係や絆が重要であると考えており、コロナ禍の収束が見通せない、このような時こそ、これまでの効率至上主義という価値観を見直すべきであり、絆づくり・コミュニティづくりというものが一層重要になると考えております。

令和3年度からスタートします相生市の指針である第6次総合計画のスローガンは「いのち輝き 絆ひろがる あいのまち」とさせていただいておりますが、教育においてもこの絆が損なわれることのないよう、デジタル一辺倒ではない、アナログも大切にきた従来どおりの血の通った教育施策の展開が大切であると考えております。

この総合教育会議は、今後の相生の教育についての大きな方向性を決定する会議であり、非常に重要な場であります。各委員の忌憚りの無い意見交換や今後に向けての調整をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

### 3 協議事項

#### (1) 相生市の教育に関する重点施策について

##### ア 令和3年度の重点施策について

#### 管理課長

令和3年度重点施策の考え方でございますが、令和3年度の教育委員会の取組は、学校教育、社会教育、人権教育に係る事業をについて、安全安心、楽しく充実した活動ができるよう、ウイズコロナ・ポストコロナ時代に合ったものに変革しながら実施して参ります。

そのため、令和3年度の重点施策の視点は、「コロナと絆」に視点をおいた取組としています。

後ほど各担当よりご説明いたしますが、令和3年度の重点事業中でも、学校教育にかかるとして①相生型ハイブリッド学習の研究事業（「ふれあい・絆×ICT」融合学習）、社会教育にかかるとして②社会教育施設リモート化事業（コロナ時代対応 LAN、Wifi 整備）、人権教育にかかるとして③ストップコロナ差別に向けた学びと絆づくり推進事業の3事業について、市民のかたがたのウイズコロナ・ポストコロナを支えるための「教育 新3本の矢」事業として、ICTなど新しい視点を活用した前向きな事業であったり、地域の絆を深める事業として新たに実施します。

また、3本の矢を射る「弓」を「新たな教育振興基本計画」と位置づけ、多様な意見や専門的な知見を踏まえ、令和3年度中に今後の方向性を示す指針を策定いたします。

(管理課より機構順に事業概要説明)

管理課 「相生市教育振興基本計画策定事業」  
学校教育課 「相生型ハイブリット学習の研究事業」、「地域の絆を取り戻す声  
かけ運動835推進事業」  
生涯学習課 「なぎさりモート事業」、「国内交流事業」  
体育振興課 「コロナに打ち勝つ身体づくり教室」  
人権教育推進室 「ケータイ・スマホ教室プラスウィズコロナ」、「ストップコロ  
ナ差別に向けた学びと絆づくり推進事業」

#### 谷口市長

ICT 支援員の人数は何人となっているのか。

#### 学校教育課長

現在、小中学校で3人程度の配置として進めております。

#### 谷口市長

人権教育推進室の「ストップコロナ差別に向けた」というのは、「ストップコロ  
ナ差別を許さない」といったような、もっと強い言い方でもいいのではないか。

#### 人権教育推進室長

名称について、再検討させていただきます。

#### 西田委員

なぎさホールのアクセスポイント設置によるWi-Fi整備ですが、イベントや講演  
というのは分かりますが、その他に芸術文化に対してどのような活用ができるのか。

#### 生涯学習課長

遠隔地の講演をなぎさホールで見ることが可能となったり、ホワイエ等の開放場  
所で利用者のスマホやタブレットによってインターネット閲覧が可能となるので、  
打ち合わせにも活用していただけたらと考えている。

#### 谷口市長

遠隔地で実施している講演を大ホールで映して、同時に視聴するというのも可能  
なのか。

#### 生涯学習課長

配信されていれば、費用が発生しますが同時に視聴することは可能です。

#### 教育次長（管）

導入することで、会館利用の選択肢の幅が広がるということになります。

## 教育長

環境整備をすすめていきますので、それをどう活用していくかは、利用する側の知恵というところになります。

## 西田委員

わかりました。

## 萩原委員

3点お聞きします。まず、相生型ハイブリット学習についてですが、私はこういったものを聞いたことがないので、どういった学びなのか具体的にお願いします。次に、みんなの学校事業の内容と ICT 支援員というのはどういった人になるのかということをお願いします。

## 学校教育課長

ハイブリット学習の具体例ですが、教科学習であれば、従来の教科書を使用した学習も実施しながら、例えば、今まで教材の図表等では教科書に注目させていたものをタブレットになると自分で拡大等が可能になることで、新たに自分で気付いたり、人と対話することが可能となるなど、今まで行われていた学習内容に ICT のメリットを生かした学習が進めていけると考えております。デジタルとアナログのいいところを融合させた学習を授業で行い、タブレットでは進捗状況を記録できますので、ひとりひとりに応じた個別の学習が実施できるというのが、今までのドリル学習とは違ったものとなります。子どもひとりひとりにあった学習が実施できると考えているところです。

次に、みんなの学校事業ですが、総合的な学習などで行っている「創意ある学校園づくり事業」の一部となっております。これは、それぞれの学校の独自性を活かして、地域とふれあいを深めたり、子どもたちの興味関心に応じた事業実施を行っているものになります。

最後に ICT 支援員についてですが、教員免許を持っているものではなく ICT に精通した業者となります。支援員は、他自治体の情報も収集しており、教員資格はないですが、授業に関わっていくスキルを積み上げ、そういったものを提供してくれるものです。このようなデジタルの専門家というだけではない、教育にも通じたものが派遣されることになっております。

## 萩原委員

私もデジタルとアナログを融合させた教育が重要になってくると常々思っているが、人とのふれあいや手を動かしたり、足を運んだりといった体験学習が知恵になっていくと思う。知識は、本やインターネットで足りるが、知恵を育てていくために、このハイブリット型でどういったことを工夫するかが今後、大きな課題となると思う。大いに期待しているので推進をお願いします。

## 谷口市長

「ハイブリット学習」や「融合学習」とあるが、もう少し分かりやすくできないか。

## 教育次長（指）

デジタルとアナログの2本立てで取り合わせながらということになります。体験によるリアルな感触や感動をなくすことはできないですし、ICTの利便性も必要ですので、車のガソリンと電気のハイブリットのように使い分けをしながら、場面に応じた指導法を研究していかないといけないということで掲載させていただいています。ハイブリットという言葉もずいぶん浸透してきたとは思いますが、何と何のハイブリットなのかというところを補足させていただければと考えております。

## 谷口市長

注釈をいれていただくということをお願いします。

## 教育長

教育の個別最適化学習であったり、行政のデジタル化についての目的というのは、誰も取り残されない環境を作ることであり、そのためにICTを活用しようということが基本的な考え方ですので、ICTは手段であるということをお心に銘じて進めていきます。

## 小西委員

ICTは、年配の先生方の活用法やタブレットの故障などトラブルへの対応が大変だと思う。効率的で時間の短縮ができるが、新たな問題も発生すると思う。あと、ICTで答えがすぐにでてしまうので、子どもたちの想像力が欠けるということが危惧されるので、ぜひ、その部分をアナログの部分で補っていただきたい。

ハイブリットというのは、雑草という意味もあるので、そういう意味でも使っていただけたらと思います。

## 教育次長（管）

それでは、3協議事項（1）アについて、ご了解いただいたということでしょうか。

## 市長及び教育委員

はい。

## 教育次長（管）

只今いただきましたご意見等を尊重し、令和3年度の事業を進めてまいります。

#### 4 意見交換

総合教育会議は市長と教育委員会が、教育に関する諸条件整備や重要施策について協議や意見調整を行っていただく会議となっております。

これからの相生教育について、まず、各教育委員より所感をお聞かせいただきたいと思っております。それから、市長の教育に関する所感をお聞かせいただき、その後、市長と各委員による自由意見交換を行っていただきたいと考えております。

それでは、萩原教育長職務代理より申し上げます。

#### 萩原教育長職務代理

今年度はコロナの1年で学校教育、社会教育ともに行事等に大きな影響をうけました。そのようなコロナ禍にあって、先ほど令和3年度の重点施策を説明いただきましたが、コロナへの対応、ウィズコロナ、コロナと絆が前面にでており、コロナに負けない教育をやっていくんだということが伝わりましたので、来年度も推進していただきたいと思っております。

そのようななか、コロナ関連予算については、市長には配慮いただき、約4割もの予算を教育につけていただいたと聞いております。心より感謝申し上げます。

学校現場からは、コロナが原因で不登校になっている子どもがいないということを知っていますし、年度当初、学習が遅れるという懸念がありましたが、学校現場の創意工夫により、1年間で教育課程全般が終わりそうだということを知っています。

先ほどの意見交換のなかでも、申し上げましたがオンラインやICTの波が教育界にも押し寄せているのが現状ではないかなと思います。しかし、デジタルは、あくまで手段であって、人と人との絆であったり、コミュニケーションや体験学習の大切さを再度意識して、相生市の教育を進めていきたいと思っています。

先日、今年の漢字が「密」となっておりますが、最近では、三密として密が悪い意味で使われがちですが、本来の密の意味は、大切な人との関係が密接になって、人との繋がりの大切さを再認識してほしいと言われてました。本当にそうだなと思いますので、これからは、密を避けるのではなく、心の密を大切にしたい相生市の教育であってほしいなと思います。

#### 教育次長（管理）

次に、小西委員より申し上げます。

#### 小西委員

核家族化が進んで、次にデジタル化が進み、今年はコロナ禍になって、だんだん人と人との距離が遠くなっている気がします。最近の若い子を見ていると、人の言っていることを汲み取る力や自分の思っていることを発信する力が弱くなっている気がします。

ミーティングでも自分の意見が言えないから、コミュニケーションがとれなくなつて、会社を休むといったことが増えている。来れない理由は、仕事が嫌いなのではなく、コミュニケーションがとれないという社員をよく見ます。

大家族で育てられたコミュニケーション力がなくなり、デジタル化でコミュニケーションができなくなり、コロナ禍で人に会わなくなりで人との繋がりが希薄になっている世の中を感じます。

教育現場では、社会に出たときは大事なところだと思うので、ぜひ、見えにくいですが、なんとか子どもたちのコミュニケーション能力を伸ばしていただきたいと思います。

### 教育次長（管理）

次に、栗原委員よろしく申し上げます。

### 栗原委員

私も色々とデジタルとアナログの影響を感じます。教育でいいますと、子どもっていうのは、昔からしつけで育っていくと思う。しつけの仕方がデジタルな方法で育っていく。生まれた時からタブレットがある環境なので、どういう風な使い方を与えていくか考えないといけないと思っていたんですが、考える以前にあふれかえっているの、そんな中で大人もあたふたしている状況で、子どもに対しては一緒に学んでいかないといけないなと思っている。

なごさに WI-FI 環境ができれば、具体的にどういったことができるようになるのか、私達も初体験なので、子どもたちにも教えることができない時代ですので、子どもと一緒に学んでいかないといけないと感じます。

先ほど、生涯学習課の重点施策の中に英語をコミュニケーション手段にしてとありました。確かに英語はコミュニケーションの手段なんですけど、コミュニケーションの手段を何に使うかが育ってないと使う場所がない。やはり、何を言いたい、伝えたいかを自分のなかでまとめたり、気付いたり、感情を持ったりする力を育てないとコミュニケーションを使う場が生まれてこないの、英語を勉強しても、あいさつで終わってしまい、そこから先が言えない子どもが多い。英語に限らず、色々なことに対して、ものを考えられる子どもたちが育っていかないといけないと思います。そのうえで、しっかりと英語が必要な場面で使えるようにしていかないといけないと感じています。大変ですが、相生市はワンピースイングリッシュとして、幼稚園から英語にふれるというすばらしい環境があるので、本当に身についた英語が使えるようになってほしいと思っています。

### 教育次長（管理）

次に、西田委員よろしく申し上げます。

## 西田委員

今年は、コロナ禍でいいことがなかったなと感じていますが、そのなかで、答えはひとつではないということを思って、大人も子どもも、結果は同じでも考える過程が違うということを考えた1年でした。本当に行き詰った時に、違う見方で考えるのは難しいですが、このコロナの1年で子どもたちのなかには大事な年がダメになった人がいると思うが、見方を変えてこういう生き方もあるということをお教えしたり、一緒に考えたりして、答えがこれじゃないといけないということではないということが分かれば、救えることもあるのかなと思いました。

こういった見方を変えるということ、みんなで話し合っていけたらいいなと感じた1年でした。

## 教育次長（管理）

それでは、市長よろしく申し上げます。

## 谷口市長

私は、常々申しておりますが、「まちづくり」の基本は「人づくり」にあると考えて、これまで教育施策に重点を置いた市政運営を進めさせて頂いております。

そういったなかで、相生市の今後の教育につきまして、私の考えを3点申し上げます。

1点目でございますが、子どもたちが夢や希望を抱き、学ぶことができる環境を整備していくことが大切だと考えています。

令和3年度は、これまで準備を進めてまいりましたICT教育が本格的にスタートする年度となりますが、冒頭のあいさつでも申しあげましたが、「こころ豊かでたくましい人づくり」のためには人間関係や絆の形成がとても大切なことでもあります。ICTは教育の効率化や利便性の向上に資するものと考えておりますが、あくまで教育を行うのは「人」でありますので、そのことを念頭に置いて、ICTを有効に活用して、子どもたちの教育に取り組んでいただきたいと思います。

2点目でございますが、文化会館、体育施設などを活用した文化芸術、体育の振興についてであります。

今年度は、新型コロナの影響により、多くの催しが中止となってしまいましたが、文化会館は開館以来、非常に多くの方々に来館していただき、相生市の文化芸術・交流の拠点となっております。

来年度は、この賑わいを取り戻し、将来にわたり持続しながら文化芸術の振興を図っていくためには、幅広い世代の市民に親しんでいただける魅力ある事業展開を更にすすめていくとともに、ウィズコロナ、ポストコロナによる「新しい生活様式」を見据えた会館利用の促進を図っていかねばならないと考えております。

体育の振興に関してであります。来年はオリンピック・パラリンピックイヤーでもあります。市民の皆さんがスポーツを楽しみながら健康づくりを行うという、今の流れを大切にしなければならないと考えます。



そのためにも、体育施設や設備の適切な維持管理はもちろん、事業内容につきましても、日頃スポーツにふれる機会が少ない世代や階層の方々に対して、スポーツに親しむ機会を設けるなど、より多くの市民の方々がスポーツを楽しむことができるような事業展開が望まれるところでございます。

最後に、3点目でございますが、令和3年度は、新しい教育振興基本計画を策定いただくこととなります。教育振興基本計画は、教育の各種施策を総合的・計画的に推進するための基本計画であり、これからの10年間の相生市の教育施策の指針となるものでありますので、相生市の教育がより一層進展するような計画を策定いただきますようお願いいたします。

私は、市政運営を行ううえで、教育施策の充実は極めて重要だと考えております。

これまで、各教育委員の皆様のご尽力により、相生市では先進的で充実した教育の取り組みを行うことができていると、大変ありがたく感謝をいたしております。

各委員の皆様が教育行政のみならず市政全般に対するご協力に、衷心よりお礼申し上げます。

今後ともよろしくお願いたします。

#### 教育次長（管理）

ありがとうございます。各委員と市長の所感をお聞かせいただきました。

それでは、意見交換を行っていただきたいと思っております。

どなたからでも結構です。先ほどの協議事項に関するご意見も含めよろしくお願いいたします。

#### 小西委員

私としては、835運動をもう少し広げていきたい。私も毎朝、子どもたちにあいさつをしているのですが、恥ずかしさもあって、なかなか難しいみたいです。

#### 萩原教育長職務代理

大人からあいさつをするのが大事である。子どもは大人の姿を見ているので、小さい時から体に覚えさせるのが広がりだと思ふ。

#### 小西委員

こういったものを広げるためには、多くの人を巻き込むのがいいと思うので、親世代を巻き込んで、あいさつするのが当たり前という空気感になればいいなと思っております。

谷口市長： 他にないでしょうか。

全委員： ありません。

## 教育次長（管理）

今後の相生市教育に関し、貴重なご意見をいただいた。

今回のご意見を踏まえ、事務局として関係部課とも協議を行い検討させていただき、更なる取り組みを進めさせていただきたいと考えている。予算措置が必要な事項については、今後の予算に反映できるよう努めてまいりたいと考えている。

浅井教育長 閉会の挨拶

令和2年度第2回相生市総合教育会議を終了